

# 緑区 相原学区 災害避難行動マップ

この災害避難行動マップは、大規模災害が発生した場合を想定して、学区のみなさんが、お住まいの地域の危険箇所や避難経路などについて話し合い、作成したものです。この避難行動マップを活用し、“いざ”という時どんな行動をとればよいのか日頃から考えておきましょう。

## 避難先へ安全に避難するための5つのポイント



| 番号 | 一時集合場所     | 自治会名    |
|----|------------|---------|
| ①  | 相原郷公会堂     | 相原郷一丁目  |
| ②  | 相原郷公園      | 相原郷二丁目  |
| ③  | 六田公園       | 六田二丁目   |
| ④  | 蛸畠公園       | 蛸畠自治会   |
| ⑤  | 七双公園       | 緑ヶ丘町内会  |
| ⑥  | 防災倉庫       | 鳥澄自治会   |
| ⑦  | ドン・キホーテ駐車場 | なるみ苑自治会 |

| 凡例                        |    |                           |   |
|---------------------------|----|---------------------------|---|
| 一時集合場所（自主防災組織）            | 集  | 指定緊急避難場所（広域）              |   |
| 地下式給水栓                    | 水栓 | 指定避難所                     |   |
| AED設置場所                   | 心  | 地域防災協力事業所                 |   |
| 避難経路                      | →  | 仮設トイレ設置場所                 |   |
| 内水氾濫による浸水想定<br>0.2~0.5m未満 | 黄  | 内水氾濫による浸水想定<br>0.5~1.0m未満 | 緑 |

**我が家のお避難先**  
次の空欄に記入しておきましょう。また、自宅周辺の気を付ける必要がある場所はマップに書き込んでおきましょう。

洪水・内水氾濫の危険がある場合 大砂災害の危険がある場合  
<台風や大雨が起きたら…>

津波浸水の危険がある場合 余震が続く場合 大規模な火事が発生した場合  
<大きな地震が起きたら…>

自宅が被災して住めなくなった場合  
(指定避難所などへ避難)



### 指定緊急避難場所

・洪水・内水氾濫、土砂災害、津波、大規模な火災などの、目前に迫った危険から命を守るために設けた場所です。

| 災害種別          | 指定緊急避難場所 |      |      |        |       |
|---------------|----------|------|------|--------|-------|
|               | 洪水・内水氾濫  | 土砂災害 | 津波   | 大規模な火災 | 地震の揺れ |
| ①六田公園         | △        |      | ○    | ○      |       |
| ②相原小学校        | 2階以上     | ○    | 3階以上 | ×      | グラウンド |
| ③鳴海中学校        | ○        | ○    | 3階以上 | ×      | グラウンド |
| ④相原コミュニティセンター | ○        | ○    | —    | ×      | ×     |
| ⑤緑スポーツセンター    | ○        | ○    | —    | ×      | ×     |

### 災害時の情報収集方法



### 指定避難所

・火災や家屋の倒壊、家具の転倒などにより、自宅に住むことが出来なくなった方が、一定期間、避難生活を送るための施設です。

・相原学区内における指定避難所は、相原小学校、相原コミュニティセンター、鳴海中学校、緑スポーツセンターの4箇所です。

**【重要】** 指定避難所の収容人数には限りがあります。避難所での生活は環境の変化から体調を崩す方も多いため、自宅で避難生活を送れるように、**家具の固定**と、**7日分の備蓄**を進めましょう。

### 気を付けて!(地震編)

1. 空き家  
耐震性が低いと倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険がある。

2. 古い(高い)ブロック塙  
大きな地震では倒壊する危険があるためすぐ離れる。近づかない。

3. 狹い道  
近くの家が倒壊した時、道がふさがれて通れない可能性がある。

4. 電線  
切れた電線は停電時でも感電の危険がある。近づかない。

5. 瓦屋根  
大きな揺れの際には瓦の落下危険がある。瓦屋根のある家屋に住んでいる方は、あわてて外に飛び出さない。

# 緑区 相原学区

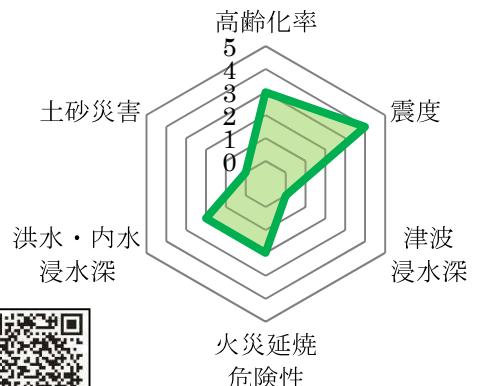
世帯数：3,284世帯 人口：8,118人 面積：1,098km<sup>2</sup> ※平成31年2月1日現在の世帯数と人口より

## 特性と災害リスク

南海トラフ巨大地震が発生した場合、強い揺れが想定されます。まずは身を守りましょう。このときに怪我をしないよう、日頃から家具の転倒防止などの耐震対策に努めましょう。また、洪水による浸水も想定されています。河川の水位など普段から情報収集できるよう確認しておくとともに避難情報の発令等があった場合などに速やかに行動できるよう準備しておきましょう。

## リスクレーダーチャート([STEP1：地域特性の把握])

|              | 値           | 5段階 |
|--------------|-------------|-----|
| 高齢化率         | 22.5%       | 3   |
| 震度           | 6強          | 4   |
| 津波<br>浸水深    | 0m          | 0   |
| 火災延焼<br>危険性  | 100～500棟未満  | 2   |
| 洪水・内水<br>浸水深 | 0.5m～1.0m未満 | 2   |
| 土砂灾害         | 警戒区域なし      | 0   |



お住まいの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況(密集状況や古いブロック屋など)及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災、減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用下さい。

<http://www.city.nagoya.jp/bosaikikikanri/page/0000110628.html>



## 一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!

- まず、自分自身と家族の命を守ることが最優先です。その後、活動できる人は、隣近所、組、町内などで助け合う「自主防災組織」として、自主防災会長を中心活動します。(安否確認、声かけなど)
- 災害の恐れがなくなった後も、避難生活は続きます。自宅(在宅避難)が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。
- 「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部(区役所)に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。

## 学区の取り決め、行動計画、心得など(ご協力ください)

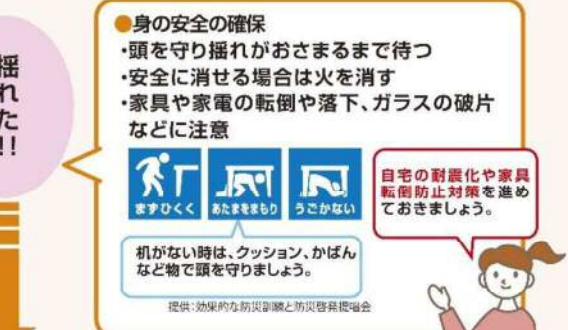
- 大人も子どもも年齢に関係なく、ひとり一人が自分の命をしっかりと守れるように、「グラッ」と来た時の対応を身に付けておきましょう。
- 被害の拡大を防ぐため、自分と家族の安全を確認後、一時集合場所に集合して、**自主防災活動**に参加しましょう。
- 感震ブレーカーなどにより、**火災延焼**による被害を出さないように備えを進めましょう。

### 在宅避難のススメ

避難所は、不特定多数の方が避難生活を送るために、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。

- 在宅避難している高齢者や障害者などに声を掛けよう！
- 周囲に自宅避難を知らせてやろう！
- 最寄りの避難所で避難者登録しよう！
- 周囲で声かけし、食料や物資を分け合おう！

## 地震時の行動(津波浸水想定区域外)



- 火の元の確認、出火したら初期消火
  - 怪我をしないように底の厚い靴やスリッパを履き、出入口の確保
  - 家族の安否・家屋の被害状況の確認
  - テレビ・ラジオ・スマホなどから正しい情報の入手
  - 非常持出品の準備
- 町内会・自治会単位に結成された自主防災組織があり、災害時に初期消火・救出救助等を行う自主防災組織の活動にご協力をお願いします。

◆自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活を！

避難所は多数の方が避難生活を送るため、大きな負担がかかることが想定されます。倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。

- 在宅避難している高齢者や障害者などへの声掛け
- 最寄りの避難所で避難者登録
- 周囲で食料や物資を分け合おう
- 高齢者や障害者の避難誘導
- 原則、徒歩で避難

避必須  
緊要急  
な避  
難場  
合が  
は、

**3日前**

台風が発生した [情報収集]

- テレビ・ラジオ・スマートフォンなどから台風の大きさ・強さや川の水位などの情報を入手

**2日前**

台風や大雨が来るぞ!! [準備]

- 避難ガイドやハザードマップで指定緊急避難場所、指定避難所や漫水想定区域等の確認
- 家族との連絡方法の確認
- 家の周りの飛ばされやすいものや、流されやすいものの片付け

**1日前**

雨足が強くなってきた!! [避難の判断]

- 情報収集を続けて、避難開始時期を判断
  - テレビ・ラジオ等 携帯電話・メール 防災スピーカー 広報車等
- 50cm以上の漫水時は避難に危険が伴うため注意
- 自動的に避難する場合には、事前に区役所へ連絡する
  - 洪水・内水氾濫の想定漫水深より下の階にいる
  - 土砂災害警戒区域にいる
  - 堤防の近くで、安全な建物にいない

どれか一つ以上 該当する

該当しない

自宅などにとどまる

避難情報の発令等により避難行動!! [避難開始]

ただちに避難!(垂直避難)

- 指定緊急避難場所までの道が危険な場合は、身近な建物のできるだけ上の階へ・屋外での避難が危険だと感じたら、自宅の上階へ

避難準備・高齢者等避難開始

- 避難の事前準備をする構造をするために発表するもの。高齢者や障害者が自主避難を開始する目安

避難勧告

- 被害が発生するおそれがあるため、避難をすすめるために発令するもの

避難指示(緊急)

- 被害の危険が目前に迫り、生命の危険がより高まったため、避難を強くすすめるために発令するもの

## 一人では逃げられない方への対応

過去の災害では、周囲からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、下記のような高齢者や障がいのある方などの避難行動を早めました。日頃から一人で逃げられない方を把握し、地域みんなで、いち早く避難行動が取れるよう協力しましょう。

